

1 県経済の規模と構造

令和2年の総供給（＝総需要）は12兆3,549億円で、総供給（県内生産額＋移輸入）のうち県内生産額は8兆9,456億円（72.4%）である。

また、総需要（県内需要＋移輸出）のうち、県内需要は8兆8,955億円（72.0%）である。

図1 令和2年産業連関表からみた富山県経済の構造

(単位：億円)

		総需要		123549								
		県内生産額		89456				移輸入 34093				
		県内需要		88955				移輸出 34594				
		中間需要		40946		最終需要				82603		
総供給 123549	県内生産額	中間投入	中間生産物の取引 →産出（販売）		県内最終需要					移輸出		
			↓投入（購入）		48009							
						家計外消費支出	民間消費支出	一般政府消費支出	県内総固定資本形成	在庫純増		
						825	24543	9377	13506	-242	34594	
				粗付加価値	家計外消費支出		825					
					雇用者所得		25295					
					営業余剰		7104					
					資本減耗引当		12745					
					間接税－経常補助金		2541					
						移輸入		34093				

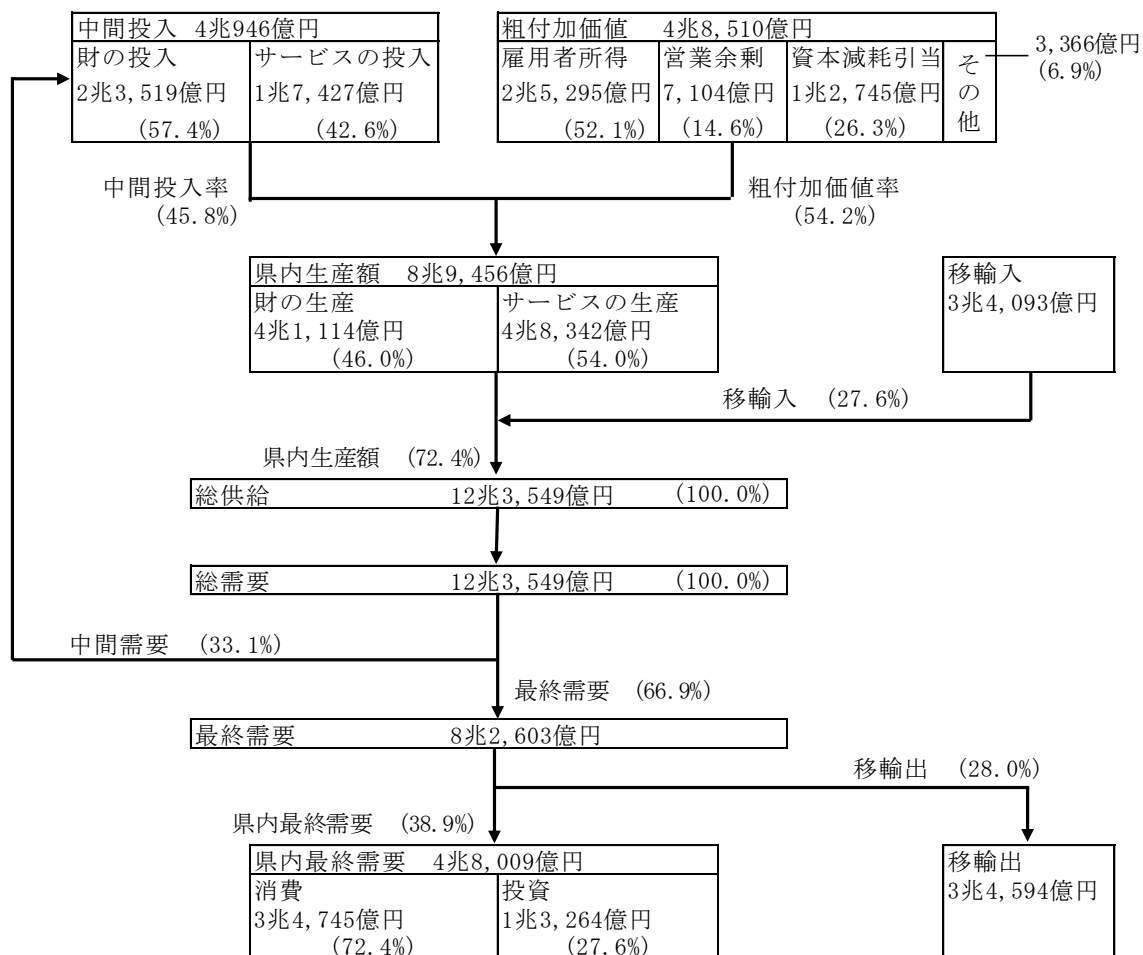
(注) 四捨五入の関係で、内訳は必ずしも合計と一致しない。

令和2年に県内で生産された財・サービスの総額（県内生産額）は8兆9,456億円である。そのうち4兆946億円（45.8%）が原材料等の中間投入であり、残りの4兆8,510億円（54.2%）は雇用者所得、営業余剰等の粗付加価値である。

総供給（＝総需要）は12兆3,549億円であり、総供給と県内生産額との差、つまり県内生産で足りない3兆4,093億円は移輸入で賄われる。

次に、需要側からみると、総需要のうち、各産業の生産活動に利用される中間需要（中間投入）は4兆946億円（33.1%）であり、県内最終需要4兆8,009億円（38.9%）は消費・投資として県内で消費され、残りの3兆4,594億円（28.0%）は移輸出に向けられる。

図2 令和2年産業連関表からみた財・サービスの流れ



- (注) 1 この図において、「財」は、統合大分類の「農林漁業」～「建設」及び「事務用品」、「サービス」は同じく「電気・ガス・熱供給」～「対個人サービス」及び「分類不明」の合計である。
 2 この図において、消費とは、「家計外消費支出」、「民間消費支出」及び「一般政府消費支出」の合計、投資とは「県内総固定資本形成」及び「在庫純増」の合計である。
 3 四捨五入していることから、内訳は必ずしも合計と一致しない。
 4 () は、構成比を示す。